

固く閉じていたサクラのつぼみもようやくほころび始め、暖かな希望の春がやってまいりました。本日、『天草市長 馬場昭治様』を始め、多数のご来賓の方々、そして、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和五年度、卒業証書授与式を挙行できますこと、心よりお礼申し上げます。

それでは改めて、五十七名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先ほど、皆さん一人一人に卒業証書を手渡ししました。皆さんの凛々しい姿を目前にして、いよいよお別れの時が来たのだなど、感慨を新たにいたしました。

六年生の皆さんとは、二年間、学校生活を共にしてきました。この間の皆さんの成長には、目覚ましいものがありました。特に六年生になってからの一年間は、学校の教育目標である「気づき、考え、実行する」を、具体的な行動に移し、学校全体をリードしてくれました。運動会応援団の統率の取れた演舞、児童会主体の挨拶運動、赤い羽募金活動や能登半島地震復興支援の募金活動への積極的な取組、一年生の子供達のお世話や読み聞かせなど。本当によく頑張ってくれました。皆さんのおかげで、学校全体が明るい雰囲気包まれ、活気に満ち溢れた校風が醸成されたように感じます。本当にありがとうございます。

さて、話は少し戻りますが、先ほど授与した卒業証書を今一度見返してみてください。そこには、どんなことが書いてありますか。始めに卒業番号が記されていますね。今回、最初に証書を授与した稲葉晴星さんが七一五号でしたので、現在の亀川小学校が開校してから昨年度まで、七一四人の先輩がこの学校で学び、巣立っていかれたこととなります。更に、統合前に遡れば、

亀場小学校、柗宇土小学校、宮地岳小学校は全て明治八年に開校しており、記録に残っているだけでも七四〇一人の卒業生を輩出しています。記録に残っていない方も含めれば、更に多くの卒業生がいたわけです。亀川小学校には、明治、大正、昭和、平成、令和と五つもの時代を力強く生き抜いてきた先輩方の魂が脈々と受け継がれてきているのです。皆さんは、たくさんの先輩方が築いてきた伝統を立派に引き継ぎ、今日、亀川小学校の卒業生としてその歴史に名を刻むことになるわけです。

次に、証書の中央部を見てください。そこには、『小学校の全課程を修了したことを証する』と書いてあります。『小学校の全課程』というのは、学校の六年間で学ぶべきこと全てを意味します。例えば、国語や算数の学習内容であったり、友達を思いやる心や態度であったり、また、社会生活に必要な礼儀や作法であったり。『全課程』という言葉の中にはそれらが全て凝縮されているわけです。また、『しゅうりょう』の『しゅう』という言葉には、『終わる』という漢字ではなく、『修める』という漢字が使われています。この意味の違いが分かりますか。『終わる』の文字が使われる『終了』は、単に時間が過ぎて終わった、という意味で使われます。一方で『修める』の方の『修了』は、学ぶべきことを学び終える、という意味合いがあります。つまり、この卒業証書は、皆さんが、小学校で学ぶべき事柄を全て学び終わり、それらを全て習得したということ、校長である私が自信と責任をもって証明するというものなのです。皆さんが、

亀川小学校で学びを終えたことの証として大切にしてくださいね。

話は変わりますが、皆さんは亀川小学校の校歌は歌えますよね。六年間歌い続けてきたわけですから、歌詞もすらすらと頭の中に浮かんでくるでしょう。では、一番の歌詞にはどんな情景がよまれていますか。そう、『天草の上下結ぶ大橋は、我が故郷の要にて、夢や希望を運びくる。』と歌われています。十二年前に作られた歌ですから、この大橋はループ橋である『瀬戸大橋』のことですね。昨年、もう一本の大橋である令和大橋が完成しましたので、上下（かみしも）結ぶ大橋は二つになりました。この二つの大橋のおかげで、生活の利便性は大きく向上し、島外からも多くの観光客が訪れるようになりました。まさしく夢や希望を運びくる大橋、我が故郷の要と言えるでしょう。

しかし、一方で、「いや、ちょっと待てよ。」と思った人がいるかもしれません。そう、天草の下島と上島を結ぶ橋はもう一本存在しますよね。皆さんも知っているでしょう。本渡瀬戸歩道橋（通称『赤橋』）のことですね。この赤橋は、歩行者・自転車の往来が楽にできるようにと一九七七年に作られた橋です。この赤橋は、二つの大橋に比べれば規模も小さく、目立った橋ではありません。対外的な認知度も、二つの大橋程は高くないでしょう。しかし、この赤橋は、他の二つの大橋と同じように、天草にはなくてはならない大切な橋です。歩行者や自転車が往来する際には、この赤橋が活躍するのです。車を利用しない方にとっては正になくてはならない要の橋なのです。また、船の往来に合わせて橋が上下に昇降する仕組みは全国的にも珍しく、そのような意味では、個性豊かな橋だとも言えます。

これから中学校に進学する皆さんは、よ

り一層、多様な見方や考え方ができるようになってきます。皆さんには、大きく目立つ二つの大橋の価値と同様に、『赤橋』のように目立たなくとも個性を輝かせ頑張っている者の「存在」や「よさ」にも気づくことができ『感性』豊かな人に成長してほしいと願います。また、同時に自分の個性をも磨き輝かせ、これから皆さんが進む激動の時代を自分らしく、そして逞しく生き抜くことのできる力も育んでほしいと思います。私も、亀川小学校の先生方もいつまでも応援しています。

保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業本当におめでとうございます。六年間の小学校での生活を今、全員無事に終えようとしています。その間、保護者の皆様には、学校教育に深いご理解と多大なるご協力を頂きましたこと、本当にありがとうございます。学校として行き届かない面も多々あったかとは存じますが、子供たちを、そして学校を温かく支えて頂きましたこと、感謝の念に堪えません。子供たちは、四月から中学校へと進学いたしますが、一人一人が一層心豊かに、また身体を鍛え逞しく成長してくれたいことを願っています。

最後になりましたが、子供たちの輝かしい前途を祈念いたしまして、式辞といたします。

令和六年三月二十一日

天草市立亀川小学校

校長 沢村祐介

一年間、大変お世話になりました。令和六年度も子供たちの健全育成のために、全職員一丸となって教育指導に努めて参ります。次年度も引き続き、保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力についてよろしくお願いたします。